

元祖 モリモリ書店

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校

読書だより

最近、キズジムの「フリー」
というデジタル・トクダツキ

第30話 R02.07.31(金)
「本当に信じられる
ものは何か。」

★今回、紹介する本は、『その孤島の名は、^{まよ}虚』(著/古野まほろ、出版/角川文庫)です。

前回に引き続き、今回も、「数学」をテーマにした本を紹介します。しかも、帯にもありますが、「数学」×「吹奏楽部」×「女子高生」×「サバイバルミステリ」というかなり独創的な小説。

女子校の吹奏楽部24人が、ある日、校舎ごと、異世界の孤島にとばされてしまう。そこには、「影」のような生物がいたり、不可思議な自然現象が起こったり。そして、遂には、部員同士での分裂が一。無事、彼女たちは元の世界に戻れるのか…。

奇想天外な設定を支えるのは、「数学」(タイトルが実にストレートに象徴していますが…)。また、中盤から終盤にかけての怒濤の展開がすさまじいです。絶望的な極限状態で人間は何ができるのか。本当に大切なものは何か。ミステリを楽しみながら、「数学の美しさ」を味わえる1冊!



著者は元吹奏楽部という異色の経歴を持つ。

対話し続けよと、
解り合おうとする
ことを止めないかぎり、
絶対、遠くは一緒になるわ (p.513)

ま、かけはま、かけ、
決意は決意。
この世界の不始末は、この世界でつける。 (p.398)

異世界の謎を「数学」!!
と、カギは「数学」★

吹奏楽部の
描き方を
おもしろい。